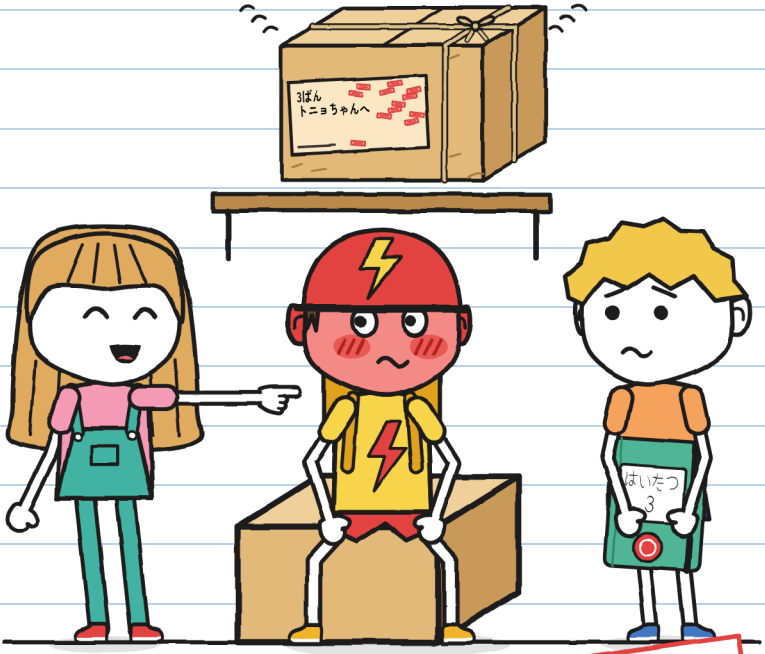
ありえない はいたつ・3

へんそう おねがい

LinguAula



（グニの ノート）

サイズ L
上級・11+

ありえない はいたつ・3
へんそう おねがい

文と絵：LinguAula

サイズ L・上級・11+

日本語版：LinguAula

初版：2026

© 2026 LinguAula · info@linguaula.com

自由にコピーして、学校でも家でも使えます。

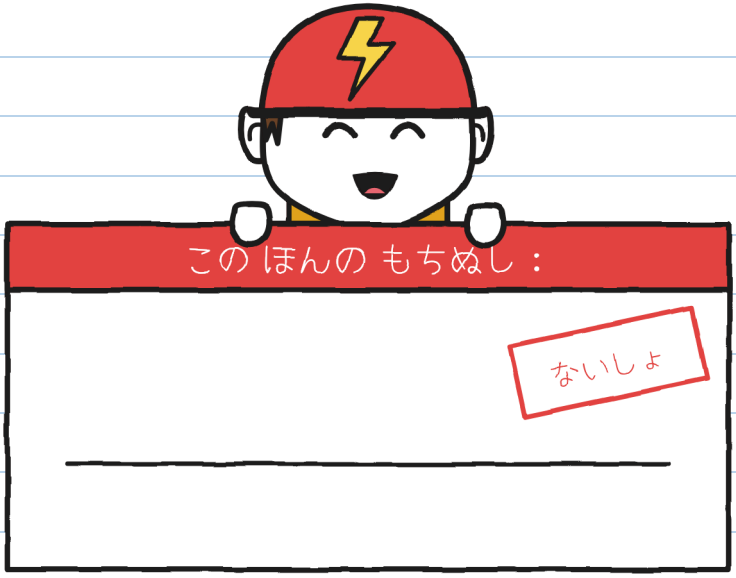
シリーズ第3作。前の2作：『このにもつは かみつく』『かみなり前に あけるな』



LinguAula

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう

この本のしっぴつちゅうに、ケガをした配達員は一人もいない。
まっ赤になった人は、いる。 —J.



そして さきに よむのは わたし。 —J.

見つけたら、もどしてください。おねがいします。

おはなしの なかだけ

このはんこは、おはなしの中だけで起こることのしるし。本物の荷物は飛んでもどったりしない。本物の自転車に乗るときは、76ページのとおりに。 —J.

だれが だれ？



グニ。どようびの はいたつやさん。だれも たのんで いない ものを かく。この ノートは グニの。



フリータ。みどりで かいて、「J.」と サインする。いつも たすけかたを しって いる。それが もんだい。



トニョ。じてんしゃで イナズマびんの はいたつを する。じっぷんで とどかなければ タダ。あかく なるのは ぶぶんごと。



マラさん。「ありえない はいたつ」の てんしゅ。まじょの ぼうしを かぶって いる。いうより ずっと おおくを しって いる。



ゾーイ。イナズマびんの 人。いちばん はやい。あだなを つける 人。



ブルーノ。イナズマびんの 人。1かい パンクした。2ねん まえ。



3ばんの にもつ。うごかすと なる。ラベルには なまえが ひとつだけ。

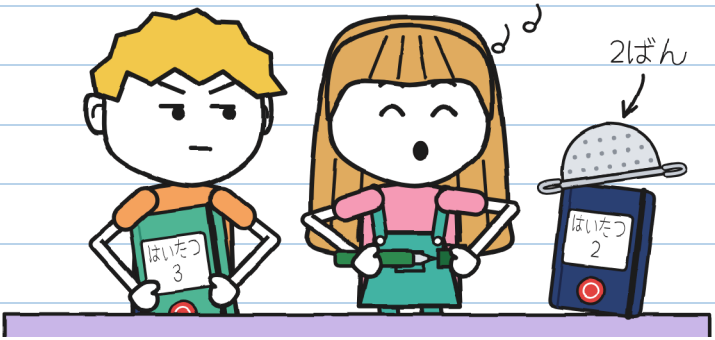


R.は、だれにも とどけられない にもつを おくるひと。その なまえを だれも いわない。

グニの
はいたつノート3

ないしょ。

「ないしょ」は、先に読むこと。だれにも言わない。 —J.



ノート2は、たった一回のあらしで使いきった。これは緑色で、店のはんこ入り。ぼくが一番に使うはずだったのに、使いはじめたのはフリータだった。

助けるために先に使ったの。どういたしまして。 —J.

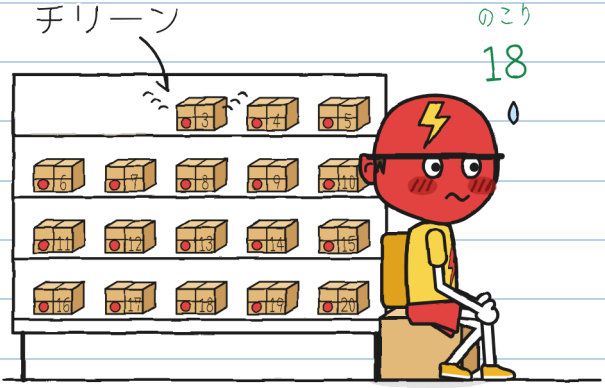
ぼくはたのんでいない。でも、フリータには関係ない。

第 1 章

チリーン

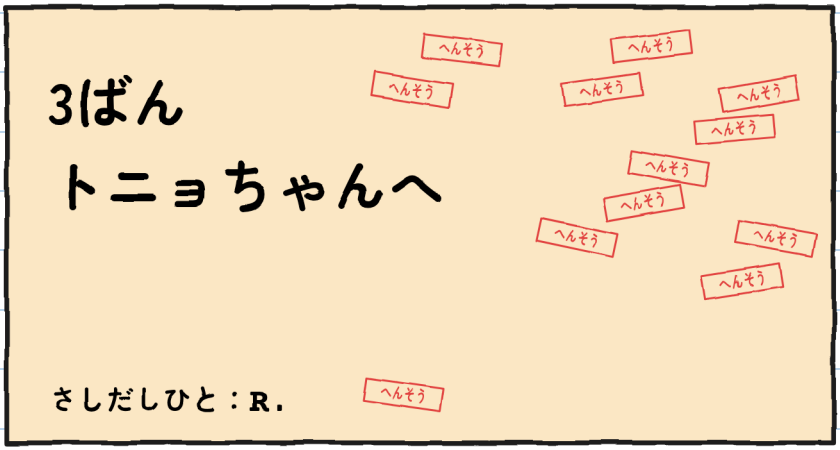
マラさんの店には、だれにもとどけられなかった荷物のたながある。二十こあった。フリータとぼくは、ドラゴンのたまごと走るたねをとどけた。のこりは十八こ。

あらしの夜、もううちへ帰ろうとしていたとき、そのうちの一つが鳴った。
チリーン。



3番だった。十分でとどかなければタダのイナズマ便で働くトニョが、ヘルメットと同じ色になった。

もどってきた荷物とは、かならずもどってくる荷物のこと。受けとった人がラベルにきえないインクでサインしなければ、夜明けにたなへ飛んでもどる。おくってくるのは、いつも同じ人。R.だ。



フリータはラベルを読みはじめた：
「トニョちゃ……」
フリータは口をとじた。フリータは、ことばのとちゅうでだまったりしない。ぼくはトニョを見て、わけがわかった。

半分だけ読んだ。あとの半分は飲みこんだ。 —J.

いきなりまっ赤になる人もいる。トニョはちがう。トニョは部分ごとに赤くなる。ぼくは書きとめた。

トニョの あかメーター



「その荷物は、まてる」とトニョはものすごい早口で言った。「何年もまってるんだろ？　じゃあ、あと一日。十日でもいい。イナズマ便はいそがない」

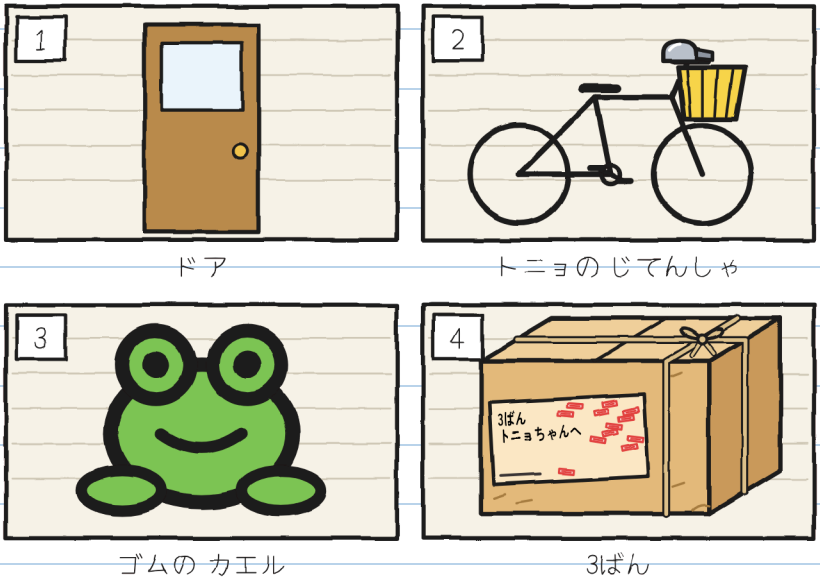
イナズマ便がそんなことを言うのを聞いたのは、これがはじめてだった。

その夜：4。赤で書きたかった。でも、持っているのは緑だけ。　—J.

「今夜は何も開けない」とマラさんは言った。「たなには勝手にさわらない」
だれもさわらなかった。なのに、また鳴った。
チリーン。
「ドアだよ！」とフリータは言った。

わからないことがあると、ぼくはリストを作る。

チリーンの ようぎしゃ



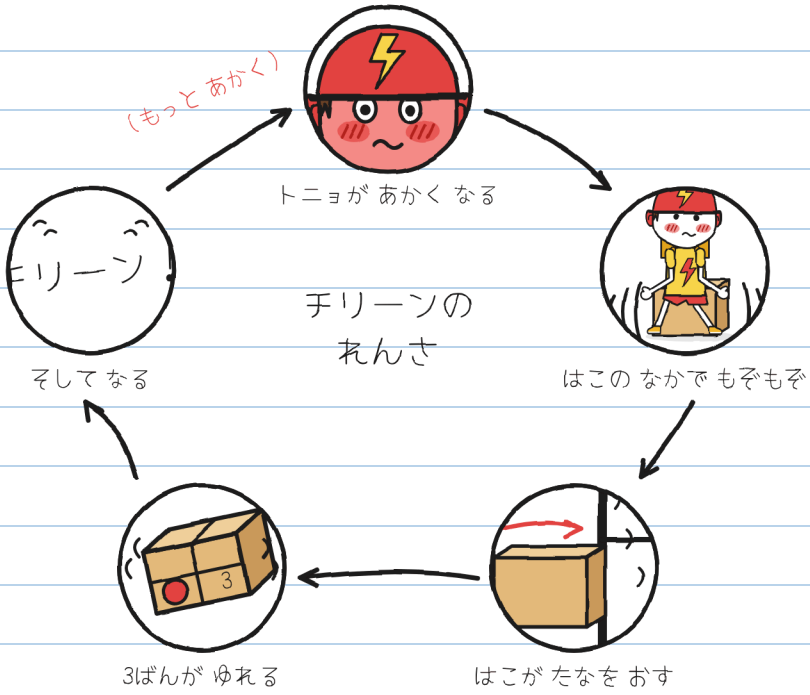
カエルは悪くない。わたし、知ってるから。 —J.

ぼくはたしかめに歩道に出た。もう雨はやんでいた。
ドアを開けてしめた：ギィー。トニョのベルをならした：リンリン！　カエルをおした：キュッ。



中ではフリータが指をふって「ちがう」と合図していた。どれもちがった。
ぼくはまた中に入った。トニョが箱の中で身じろぎした。
チリーン。

ぼくはしゃがんだ。トニョの箱が、たなの足にもたれかかっていた。



まほうじゃない。トニョだった。
3番の中には、動かすと鳴るものが入っている。

わたしと同じ。 —J.

トニョはじっとしていることに決めた。それがもったのは、これだけだ：

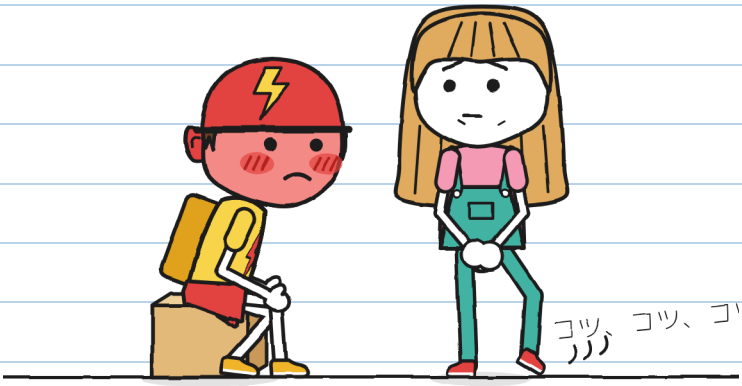


ただ聞いただけ。聞いただけで、たなはおせない。 —J.

この一言は、おした。

「ぼくのことだ」とトニョは、自分のスニーカーを見ながら言った。「小さいころの」
あまり小さい声だったので、カエルのほうがぼくよりよく聞こえたはずだ。

フリータは口を開けた。しつもんが行列をつくっているのが、ぼくには見えた。それから、まだスニーカーを見ているトニョを見て、口をとじた。



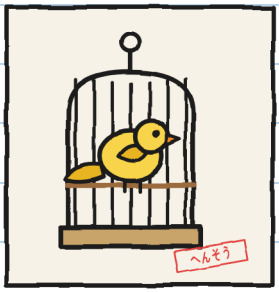
「もうきかない」と言った。
がまんするのは大変だった。足に出ていた。

聞かなかったことは九こ。ぜんぶ書きとめてある。 —J.

「どうして一度もとどけなかったの？」とぼくはマラさんに聞いた。

「十二回持っていったよ。ラベルを見てごらん。通りの名前も、番地も、名字もない。見つけたトニョちゃんは、ぜんぶ試した」

マラさんの トニョちゃんたち



1. カナリア。
（ラベルを ふんだ。ダメ。）



2. アントニオさん、71さい。
（「そうだと いいんだけどね」）



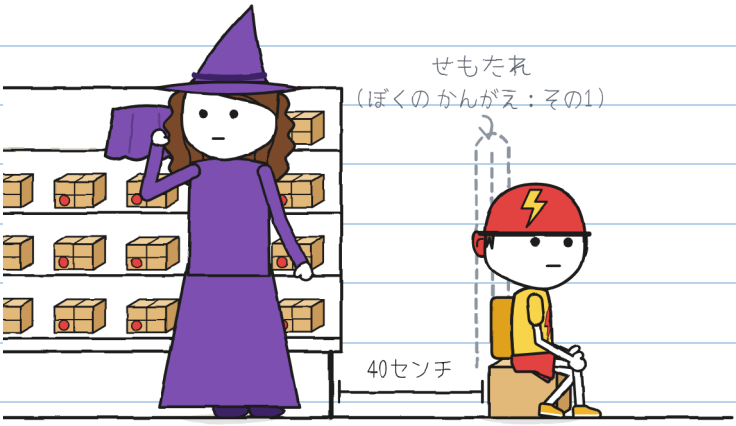
3. うんがの ボート。
（てが ない。）

「トニョは？」とフリータが聞いた。

「この前やってみたときは、まだトニョを知らなかった」とマラさんは言って、トニョを見た。「それに、小さいころなんとよばれていたのか、だれも教えてくれなかった」

マラさんはカウンターの下からむらさき色のぬのを出して3番にかぶせた。オウムをねかせるときに、かごにかけるみたいに。そのあと、トニョの箱をたなから40センチ遠ざけた。

「これでいい。好きなだけ動いていいよ」



トニョは自転車で帰れたはずだ。ドアのところにある。

10分で町の反対のはしまで行けた。

トニョはまたすわった。

なぜかはわからない。でも書いておく。トニョの箱にはせもたれがないから、ぼくが一つかいた。

だれもあなたに、せもたれなんてたのんでいない。 —J.

店をしめるとき、トニョは最後までのこって、ヘルメットをとめていた。
「マラさん。あした、あの荷物のことで話しに来る。ほかの人に聞かれない所で」
「この二人は店の人だよ」
トニョはぼくたちを見た。
「この二人ならいい。でも、イナズマ便の人はだめだ」



チリーンの持ち主は、もうわかった。あとは、その持ち主がそれをほしがるかどうかだ。

どうすれば助けられるか、わたしにはもうわかっている。 —J.

それがぼくは心配なんだ。

ひとつの おはなし、むっつの サイズ

サイズは六つあって、3さいから16さいまで。ことばは20いじょう。**XXS**、**XS**、**S**、**M**、**L**はページも絵も同じ。**XL**は小説。ちがうのは話し方だけ。

サイズ XXS · PRE-A1
マラさんと トニョが わらう。あかい じてんしゃが みえる？

サイズ XS · A1
マラさんは わらいそうに なった。トニョも わらった。どようびから ずっと わらって いなかった。

サイズ S · A2
マラさんが ふっと おとを たてた。ほとんど わらい だった。トニョも わらった。土曜日から トニョが わらうのを 見て いなかった。

サイズ M · B1
マラさんが音をたてた。笑い声みたいだった。トニョも笑った。土曜日から、トニョが笑うのを見ていなかった。

サイズ L · B2
マラさんが、ほかの人だったら笑い声になるような音をたてた。トニョも笑った。土曜日から、トニョが笑うのを見ていなかった。

サイズ XL · B2-C1
イラスト小説 · 13+
CEFRのレベルは目安です。

どのサイズも、同じチリーン。 —J.

おうちの ひとと せんせいへ
linguaula.comで しょうごとに れんしゅう